

| 潮見小校長室だより



| **151 周年** 2025. 11. 15 No. 44 松山市立潮見小学校 校長 池川 仁

人権・同和教育について

人権・同和教育参観日にたくさんご参観いただきありがとうございました。 今 回は、人権・同和教育に関する思いをお伝えいたします。

私たちが暮らす社会は、多様な人々が共に生きる場です。その中で、一人一人 尊重され、安心して暮らせることはとても大切なことです。しかし、現実には、 偏見や差別が存在しています。こうした問題をなくすためには、子どもたちだけ でなく、私たち大人も人権について正しく理解し、行動することが必要です。

人権とは、「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権 利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」(法 務省人権擁護局「人権の擁護」より)のことです。人権は、国籍、性別、障がい の有無、家庭の状況などに関係なく、誰もが等しく尊重されるべきものです。こ れは、憲法や国際的な人権規約にも明記されています。

同和問題は、日本固有の重大な人権問題であり、歴史の中で生まれた差別の一 つです。長い間、特定の地域や人々が不当な扱いを受けてきました。現在、法律

や制度等が整備されたことにより改善されている側面はあるも のの、差別は完全に解消されていません。いまだに偏見や差別 的な言動といった心の面での問題も残っています。インターネ ットや SNS での誹謗中傷、心ない書き込みは、その一例で す。こうした差別をなくすためには、**正しい知識をもち、差別** を絶対に許さない態度・行動を示すことが重要です。

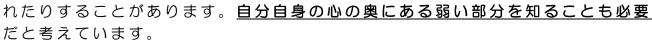
子どもたちは、学校や家庭の生活の中で他者の言葉や態度か

ら多くのことを学びます。私たち大人が<u>「相手を思いやる言葉を使う</u>」 **尊重し、認め合う**」という姿勢を示すことで、子どもたちに自ずと人権を大切に する態度が育ってくると思います。今月の生活目標は<u>「言葉づかいを整えよう」</u> ですから、子どもたちには、差別的な言葉を使わないよう呼び掛けています。ま

た、日頃から、他者の違いを否定せず、「そういう考え方もあ るね」と受け止めたり、困っている人を見かけたら積極的に手 助けをしたりすることも伝えています。

人権を守ることは、特別なことではないと思います。子ども たちが「みんなが安心できる社会」を実感できるよう、まずは 私たち自身が人権意識を高め、差別をなくすために行動し、そ れを積み重ねていきたいものです。

しかし、偉そうなことを言っている私も、知らないうちに相 手を傷付けていたり、「こうあるべき」という考え方にとらわ



『「人間を助けるということが何より大事」そして、それは「本能的な常識」』 という言葉を残したのは、日本人として初めて国連難民高等弁務官として活躍し た緒方貞子さんです。「困っている人がいれば助ける」という当たり前の行為が、 差別をなくすことにつながるではないでしょうか。

